

# 最新鋭装置など報告

## 医療連携カンファレンス

製鉄記念室蘭病院

製鉄記念室蘭病院(前田征洋病院長)の第20回医療連携カンファレンスが、室蘭市知利別町の同病院で開かれ、放射線科が肝がん治療に導入した最新鋭の装置や、大動脈瘤解離など心大血管症例への対応状況などを同院

の担当医師が報告した。

地域医療連携の推進や医療関係者の情報交換の一環。地域の医師や看護

最新鋭の治療装置や、心臓大血管外科の現状が報告された医療連携カンファレンス



師ら約60人が出席した。

放射線科の湯浅憲章科長は、道内で2カ所目、道南では初の導入となった「可変型フジオ波焼灼装置」について説明。特殊な針を皮膚の上から腫瘍を狙って刺し、がんを焼いて壊死する同装置は、肝臓がん治療の一つとして導入した。

従来型より細かく焼灼

範囲を調整でき、周辺臓器への損傷が最小限に抑えられることから、患者への負担軽減につながっている点などを解説。肝動脈化学塞栓療法との併用で、5割程度までの腫瘍の治療に対応が可能なことなどを紹介した。

心臓大血管外科の赤坂伸之科長は、胸部大動脈瘤や大動脈解離など、西胆振でも緊急性の高い症例が増えているデータを示し「治療の症例を積み重ねることが重要。治療実績の増加、成績向上に努めたい」とまとめた。

(菅原啓)